



東北福祉大学

TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY 福祉等関係専門職の生涯キャリア形成を目指す

受講
無料

TFU
Tohoku Fukushi University

2026

実学臨床研究

セミナー

多様性をいきる

— 利用者主体を地域で支える —

■ 受講方法 Zoomミーティングによるオンライン開催

※ 事前収録による動画を配信する回と対面で開催する回もございます

※ Zoom情報は開催前日の夕方に専用サイト(Peatix)より送付します(予定)

※ 各回のお申込み者様には開催終了後に記録動画を配信いたします(期間限定 見逃し視聴可)

■ 申込方法 専用サイト(Peatix)にてご登録ください <https://jitsugaku-seminar26.peatix.com/>

申込期間：開催3週間前より 開催前日12時まで

※ 各回でお申込みが必要です **年間申込みはございません**



■ 開催スケジュール 詳細は別紙(受講案内ページ)をご覧ください(変更される場合もございます)

回	日	時間・方法	テーマ	講師
56	4/23	18:30-20:00	オリエンテーションと総論 多様性とは	元村智明・三浦 剛
57	5/21	動画配信	当事者主体と意思決定 1 障がい領域	狩野俊介・川村有紀
58	6/25	18:30-20:00	当事者主体と意思決定 2 子ども領域	竹之内章代 ほか
59	7/16	18:30-20:00	“当事者主体”“住民主体”を支える —ケアリングコミュニティづくり	大石剛史・柴田直也
60	8/20	動画配信	地域生活と包括ケア・多職種連携	田中尚・佐々木みずほ
61	9/3	動画配信	実践研究のタネ 1 福祉現場での実践から生まれる問い(研究への誘い)	寺内 淳・三浦 剛
62	10/3	13:30-15:30	【対面開催】福祉系職能団体コラボシンポジウム 利用者主体を地域で支える	職能団体(調整中)
63	11/5	動画配信	実践研究紹介 1 大学で福祉を学び福祉現場で働く卒業生より	卒業生(調整中)
64	12/3	動画配信	実践研究のタネ 2 福祉現場での実践から生まれる問い(研究への誘い)	佐藤晴子・三浦 剛
65	1/7	動画配信	実践研究紹介 2 「支えられる側」から「地域を構成する主体」へ	小野寺悦子
66	2/4	動画配信	実践研究のタネ 3 福祉現場での実践から生まれる問い(研究への誘い)	本学協定法人(調整中)
67	3/4	動画配信	総括シンポジウム 多様性をいきる	セミナー実行委員

【お問い合わせ】 東北福祉大学 TFU実学臨床研究セミナー実行委員会事務局 (実習支援センター 実学臨床教育推進室内)

TEL 022-717-3359 E-mail kenkyu-seminar@tfu.ac.jp ※平日8:30~17:30 (土日・祝日不在)

最終更新日 2026/07/17

2026

T F U

実学臨床研究

セミナー

受講案内

申込方法

専用サイト(Peatix)にてご登録ください

開催日3週間前 より 開催日前日 12時まで受付

※ 各回、お申込みが必要です。年間申込みはございません

年間テーマ趣旨

これまでの実学臨床研究セミナーでは、包摂(インクルーシブ)社会を理解し、「包摂」の妨げとなる「格差」に対する実践について考えてきた。そこでは財や能力の違いが、個の責任と考えられ、排除のきっかけとなることが明らかになり、一人ひとり違い、すなわち多様性を受け容れる社会、環境をつくることが格差に対する福祉実践であることが示された。

多様性に対する差別、偏見、パターンリズムなどの硬直化した社会の視線を変えていくにはどうしたら良いだろうか。その時のキーワードは利用者主体、利用者中心という概念ではないだろうか。利用者主体とは、利用者の意思と社会との間の調整によって実現するものと考えられるからである。

今年度は、社会福祉、保健・医療、教育等の実践家と当事者が、個と環境の相互作用に着目し、多様性が受け容れられる社会をつくるためにはどうしたら良いかを議論したい。

56

4月23日(木)

18:30-20:00

オリエンテーション

総論：多様性とは

元村智明 (本学 総合福祉学部 准教授)

三浦 剛 (本学 総合福祉学部 教授)

社会福祉の歴史研究の立ち位置から、利用者主体や多様性の問題、社会的包摂について、いかに歴史的に構造的に捉えることができるのか、そこには社会福祉学との関連性でいかに議論を組み立てることができるのかについて試論を展開してみたいと思う。そのことを通じて各自の研究テーマや研究課題の明確化、研究の位置づけを考えるきっかけにしていきたい。さらに、発達支援を例に、利用者—支援者間の相互作用を「受容と交流」とし、利用者主体の原則に立った多様性を受容するための支援(ミクロレベルの環境)のあり方を考え、社会的包摂へつなげていく道筋を探る。

57

5月21日(木)

動画配信

当事者主体と意思決定 1

障がい領域

狩野俊介 (本学 総合福祉学部 准教授)

川村有紀 (オープンスペースぽかぽか)

今回は、精神疾患・精神障害により生じる可能性がある、将来の危機に関する共同的意思決定の方略である“クライシス・プラン”を取り上げる。このクライシス・プランの支援実践のあり方から「当事者」とは誰か、「意思決定」とは何かを問い直す。さらに、「私たち抜きに私たちのことを決めないで」というスローガンを踏まえれば、本人の意思を蔑ろにする可能性のある非自発的治療の経験の有する本人の語りから検討することも重要である。こうした本人の思いをもとに、「当事者主体」や「意思決定」について共同的かつ多角的に学ぶ機会としたい。

58

6月25日(木)

18:30-20:00

当事者主体と意思決定 2

子ども領域

竹之内章代 (本学 総合福祉学部 教授)

他

1989年子どもの権利条約が発効し、改めて「子どもの権利」が広く認められるようになった。それから四半世紀たち、ようやくわが国の児童福祉法の中に「子どもの意見表明」に関する文言が加えられた。子どもたちが自分を権利の主体者としてとらえ、その権利を十分に行使している状態であるかは判然としない。このような状況の中、子どもの意見表明の現状と課題を明らかにし、今後の子ども主体と自己決定を支える支援を考えたい。

59

7月16日(木)

18:30-20:00

“当事者主体” “住民主体”を支える
—ケアリングコミュニティづくり

大石剛史 (本学 総合福祉学部 准教授)

柴田直也 (那須塩原市社会福祉協議会)

当事者主体、住民主体の社会福祉・地域福祉の展開は重要である。しかし当事者はマイノリティであればあるほど主体的な声を発しにくい。また住民が地域福祉に関与できなければ、主体的な活動も促進されない。多様な人が暮らす地域の中で、それぞれの“思い”を発しやすい場や関係性、それを受け止めてくれるコミュニティがなければ当事者主体、住民主体の福祉は実現されない。人々が親密に関わり、また対話の中から相互理解とつながりを生み出すケアリングコミュニティづくりが重要である。ケアリングコミュニティの先進事例から、その実像と意義を考察する。

申込方法 専用サイト(Peatix)にてご登録ください

開催日3週間前 より 開催日前日 12時まで受付

受講案内

60 8月20日(木)

動画配信

地域生活と包括ケア・多職種連携

田中 尚 (本学 総合福祉学部 教授)
佐々木みずほ (石巻市保健福祉部保
健福祉総務課 兼 総合相談センター 主任
社会福祉士)

誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを送ることができるよう、社会福祉実践においては、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」を一体的に提供する仕組みである「包括ケア」は欠かせない要件となっている。また、その実現においては「多職種連携と共同」は今日の最も重要なテーマの一つである。それは、単に複数の専門職が集まるだけでなく、目的を共有し、互いの専門性を尊重しながら協力し合うことが求められている。また、それらを受けて、市町村では重層的相談支援体制構築の取り組みが進められている。そこで今回はそれらの動向を含め、多様な立場の人々が参画し、公私の連携・協働を行っていく上での取り組みと課題に焦点を当て、これからの地域生活と包括ケア・多職種連携のあり方について考えていきたい。

61 9月3日(木)

動画配信

実践研究のタネ 1

福祉現場での実践から生まれる
問い(研究への誘い)

寺内 淳 (せんだんの里)
三浦 剛 (本学 総合福祉学部 教授)

社会福祉実践を行っているソーシャルワーカーの方々が日頃の実践の中で、疑問を感じたり、モヤモヤしてスッキリしないできごとにぶつかったり、あるいは自分たちの実践が上手くいったり、なぜかクライアントとともにエンパワメントされたできごとに出会ったり...などを取り上げていく。それらのなかに、じつは研究に結び付く「タネ」がある。今回は、本学で協定を結ぶ社会福祉法人の現場での実践報告をもとに、どのような研究のタネがあるのかを対話を通して明らかにし、実践研究に取り組むためのタネを探していきたい。

62 10月3日(土)

13:30-15:30

福祉系職能団体コラボシンポジウム
利用者主体を地域で支える

宮城県社会福祉士会
宮城県精神保健福祉士協会
宮城県医療ソーシャルワーカー協会

★★ 対面開催 ★★ 仙台駅東口キャンパス 2階 未来の杜

多様な価値観や背景をもつ人々が地域で暮らす現代において、利用者主体の支援をどのように実現していくかは、社会福祉士・精神保健福祉士・医療ソーシャルワーカーに共通する重要な課題である。このシンポジウムでは、宮城県のソーシャルワーカー職能三団体が専門性を持ち寄り、制度や領域を越えて実践を共有し、多様性を支える地域づくりの方向性を探る。対面形式の特性を活かし、登壇者とフロアが双方向に意見を交わしながら、地域での支援の可能性と協働の新たな視点をともに見いだす場としたい。

63 11月5日(木)

動画配信

実践研究紹介 1

大学で福祉を学び
福祉現場で働く卒業生より

本学卒業生 (調整中)

東北福祉大学の教育理念「行学一如」をもとに、“実学”教育の先駆けになった本学独自の福祉実践教育プログラムがある(=実学臨床教育)。社会福祉等に関する幅広い知識・視点を有し、実践する力、理論化する力に富んだ人材の育成を目指した取り組みであり、2002年当時は大学4年間で約1,000時間もの実践を福祉現場で積み重ねた(資格実習時間除く)。そして、その気づきや学びを実践研究論文にもまとめている。大学で福祉を実践的に学んだ卒業生の多くは、現在、福祉専門職として働いている。そこで、今回は現在の立場から、福祉実践と研究の結びつきをうかがい、新たな実践研究の可能性を探る。

64 12月3日(木)

動画配信

実践研究のタネ 2

福祉現場での実践から生まれる
問い(研究への誘い)

佐藤晴子 (せんだんの杜ものう)
三浦 剛 (本学 総合福祉学部 教授)

2026年度 2回目の『実践研究のタネ』。社会福祉実践を行っているソーシャルワーカーの方々が日頃の実践の中で、疑問を感じたり、モヤモヤしてスッキリしないできごとにぶつかったり、あるいは自分たちの実践が上手くいったり、なぜかクライアントとともにエンパワメントされたできごとに出会ったり...などを取り上げていく。それらのなかに、じつは研究に結び付く「タネ」がある。本日も、本学で協定を結ぶ社会福祉法人の現場での実践報告をもとに、どのような研究のタネがあるのかを対話を通して明らかにし、実践研究に取り組むためのタネを探していきたい。

申込方法 専用サイト(Peatix)にてご登録ください

開催日3週間前 より 開催日前日 12時まで受付

受講案内

65) 2027年1月7日(木)

動画配信

実践研究紹介 2

「支えられる側」から「地域を構成する主体」へ
～移住被災高齢者と支援者の語りによる
適応のプロセス～

小野寺悦子（宮城大学 看護学類 助教）
東北福祉大学大学院総合福祉学研究科博士課程

広域の大規模災害後、移住による住み慣れた土地や社会的役割等の多様な喪失は、被災高齢者を孤立に導く。本研究では、この困難な適応過程を乗り越える個人のレジリエンスを引き出し、高齢者の経験や強みに着目した個別支援と社会的ネットワークを再構築する地域支援とが移住先への生活適応を促進する要因になることを明らかにした。平時の住民主体による地域福祉活動と、保健福祉専門職の伴走型・後方支援こそが、高齢者が「支えられる側」から「地域を構成する主体」へと変容させる。多様な生を認め合う支援のあり方を、調査結果をふまえ皆さんと一緒に考えたい。

66) 2月4日(木)

動画配信

実践研究のタネ 3

福祉現場での実践から生まれる
問い(研究への誘い)

本学協定法人（調整中）

社会福祉実践を行っているソーシャルワーカーの方々が日頃の実践の中で、疑問を感じたり、モヤモヤしてスッキリしないできごとに出会ったり、あるいは自分たちの実践が上手くいったり、なぜかクライアントとともにエンパワメントされたできごとに出会ったり...などを取り上げていく。

それらのなかに、じつは研究に結び付く「タネ」がある。2026年度3回目となる本日も、本学で協定を結ぶ社会福祉法人の現場での実践報告をもとに、どのような研究のタネがあるのかを対話を通して明らかにし、実践研究に取り組むためのタネを探していきたい。

67) 3月4日(木)

動画配信

総括シンポジウム

多様性をいきる

セミナー実行委員

多様性に対する差別、偏見、パターンリズムなどの硬直化した社会の視線を変えていくにはどうしたら良いのか。キーワードは利用者主体、利用者中心という概念ではないだろうか。利用者主体とは、利用者の意思と社会との間の調整によって実現するものと考えられ、年間テーマを「多様性をいきる ～利用者主体を地域で支える～」に設定した。

今年度最終回は、社会福祉、保健・医療、教育等の実践家と当事者が、個と環境の相互作用に着目し、多様性が受け容れられる社会をつくるためにはどうしたら良いか、これまでに登壇した講師らが年間テーマ「多様性をいきる」を総括する。

受講について

◎第56回、58回、59回のZ o o m情報及び資料集は開催前日にお送りします。また、お申込みいただいた皆さまには後日記録動画を配信いたします。

◎動画配信回は事前収録です。当日の夕方に視聴URL及び資料集をお送りします。

◎第6 2回セミナーは対面開催となります（リアルタイム配信はございません）。お申込みいただいた皆様には後日記録動画を配信いたします。

◎記録動画の視聴期間は約1か月です。※視聴期間を過ぎた動画はご覧いただけません。

◎当日「欠席」される場合のご連絡は不要です。

◎ご登録のアドレスにリマインドを含め、複数回メールをお送りさせていただきます。